

田耕俳句会（夜） 兼題（山笑う）

令和二年 三月二十三日 妙久寺

- 一 すぐ終る兄弟げんか山笑ふ
- 二 猫の子の足あと六つボンネット
- 三 空っぽのマスクコーナー春寒し
- 四 ビルの窓ピンクに染めて山笑う
- 五 山笑う気まぐれ女神雨の午后
- 六 雪とけて肩の荷おろす笑う山
- 七 校庭の掃除は二人山笑ふ
- 八 啓蟄や国道すすむトラクター
- 九 孫の背の大接近や山笑ふ
- 十 きさらぎや十日の月の透くるかに
- 十一 ひとつ足す春のスイーツ給料日
- 十二 波ザブン砂に五線譜春の海
- 十三 山笑う不意に飛び立つ鷺の音
- 十四 失ひし頭髪生ゆる木の芽風
- 十五 春深夜大事なきよう救急車
- 十六 春風をまといて子等のかけてゆく
- 十七 揚げひばり飛行機雲へ一直線
- 十八 同封の変顔写真桜餅
- 十九 春の海水みの面おもかすみて墨絵かな
- 二〇 沈下橋つがい春鴨栗野川
- 二一 筆入れのフラスナー軽き春日かな
- 二二 日脚伸ぶ海の青さや色澄みて
- 二三 春風や深爪に貼る絆創膏
- 二四 山笑ふ自宅待機の窓の外
- 二五 ピアスした子からまず泣き卒業歌
- 二六 野遊びのために灸する足三里
- 二七 踏跡たねつけばなに別の踏跡種漬花
- 二八 機材運ぶヘリコプター山笑う
- 二九 ゆらゆらと土の香りと陽炎と
- 三〇 一年ひととせに一期一会の花の宴
- 三一 元気でな手を振る袖に春の雨
- 三二 檻越しの虎の寝顔や春日和
- 三三 山笑ふ天下に外出禁止令
- 三四 子を叱る彼女はいつも顎マスク
- 三五 卒業や筒一斉に開ける音
- 三六 水光る稚魚かくれたる猫柳
- 三七 水音を残し暗渠へ落椿
- 三八 春しぐれ門灯点くも点かざるも
- 三九 錆果てしジャングルジムや山笑ふ
- 四〇 水を汲むポンプの音や彼岸寺
- 四一 木の間透くみつばつつじと空の青
- 四二 サイレンで慌てて窓開け山笑う
- 四三 全員の下の名を書き卒業す
- 四四 予定表コロナ予防と空白に
- 四五 臨時休校桜の蕾誰を待つ
- 四六 喫茶店昭和の雛の遊びおり
- 四七 果てしなく空と一つに花の海
- 四八 前置きの長き話や春炬燵
- 四九 踏まれても青は変わらず犬ふぐり
- 五〇 この星に居場所のありて春耕す
- 五一 目の玉を外して洗え花粉症